

FULL HEIGHT DOOR®

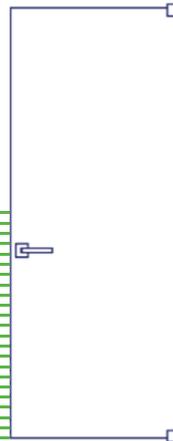
STEALTH MODE ステルス枠

フルハイトドア®

施工手順書

開き戸

開き戸



施工を担当される方へ

安全のために必ずお守りください



注意

● 施工前にこの手順書をよく読み、正しく施工してください

- 枠・下地枠の取付は、水平・垂直・ねじれがないかを必ずご確認し、確実な固定を行ってください。
- 本製品の組み立てで付属ビスがある場合には、必ずそのビスを使用してください。
付属ビス以外で取り付けた場合、部材の脱落や枠のゆるみ等が発生する恐れがあります。



● ケガや事故防止のため、以下の事項を必ずお守りください

- 風の強い場所では開き戸が強く閉まるなどして手をはさむ恐れがありますので
扉を開け放しにしないようご注意ください。
- 運搬作業時は滑り止めの手袋を着用し、扉建て付け時には十分気をつけて行ってください。



● 施工前及び施工時の確認

- 本製品は屋内用ですので、屋外や水がかりする箇所には使用しないでください。
- 本製品は内装扉を用途とする商品です。他の用途として使用したり、本手順書と異なった施工をした場合の保障は当社では責任を負いかねます。
- 高温・高湿の環境条件では使用できません。
- 施工前に部材の数量・キズの有無をご確認ください。
施工後のキズについては当社では責任を負いかねます。
- 部材を保管する場合は湿気・直射日光を避け、十分な養生をしてください。
- 開口部または枠の寸法を測り、躯体または枠が正確に施工されているか、
ご用意の扉サイズが適切かどうかご確認願います。
- 施工時に電動ドライバーを使用する場合は、カラモミを防ぐため最後の締め付けは
必ず手締めにて行ってください。
- 扉の調整の際には、電動ドライバーは絶対に使用しないでください。
ビス類が破損し、調整できなくなることがあります。
- 扉や枠の表面に、長時間テープを貼らないでください。汚れ・破損・色ムラの原因になります。
また、突き板塗装ドアの場合、塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。

● 施工後の処理

- お施主様への引渡し前に、工事管理者が必ず点検を行い、不具合箇所を補修してください。
- 施工後はキズが付かないように養生してください。
このとき、表面にテープを直接貼らないでください。
また、突き板塗装ドアの塗装仕上げ面には絶対にテープを貼らないでください。
- 清掃の際は水を固く搾った布で汚れを落とした後、柔らかい布で乾拭きしてください。
また、汚れが落ちにくい場合は、薄めた中性洗剤で汚れを落とした後、
洗剤が残らないようによく拭き取ってください。
- 内装工事が終了するまでの間は、扉をはずして保管されることをお勧めします。

□ 片開き戸

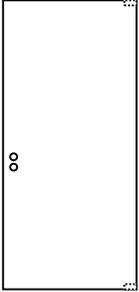
forステルス枠

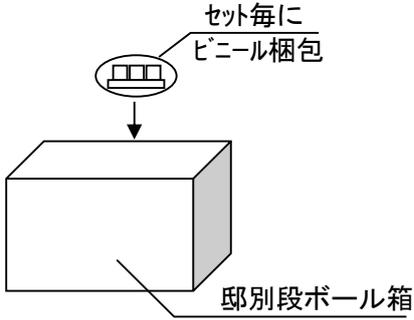
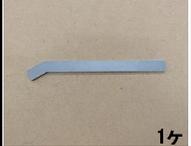
施工手順書2013/6更新

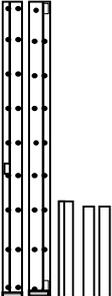
改訂2020/6

■ 製品及び同梱内容の確認

● 製品を開梱して、同梱品に間違いがないか確認をお願いします。

建具			同 梱 品				
部材	数量	備考					
開き戸	1枚	ケース錠取付済み ソフトモーション付の場合のみ ソフトモーション本体取付済み					
							

建具金物箱			ハンドルレバー	座	錠カバー		
部材	数量	備考	同 梱 品				
金物箱	10セットに付1箱			 1セット 1セット 1セット ※錠付の場合のみ			
 セット毎にビニール梱包 邸別段ボール箱				上部ヒンジ	下部ヒンジ	ヒンジカバー	ヒンジ用入隅レンチ
				 1セット(ねじ3本) 1セット(ねじ3本)	 上下1セット	 1ヶ	
			隠し丁番(オプション品)				
			 1セット(枠用及び扉用部品同梱)				

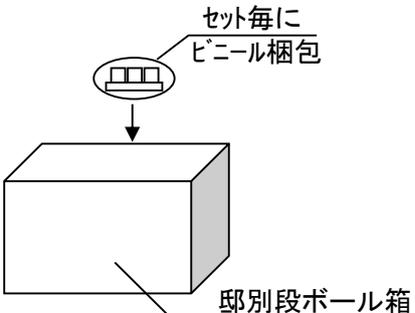
下地枠			施工手順書			
部材	数量	備考	同 梱 品			
縦枠下地	2本					
上枠下地	1本	ソフトモーション付及び 下がり壁付の場合のみ同梱				
開口定規	1本 1本	下地枠内(狭)寸法用 下地枠内(広)寸法用				
						

□片開き戸

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

下地金物箱			ラッチ受け	上部ヒンジ受	下部ヒンジ受	調整ビス							
部材	数量	備考	 1ヶ	 1セット(ねじ4本)	 1セット(ねじ4本)	 <table border="1"> <tr> <td>H24</td> <td>28本</td> <td rowspan="2">1セット</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>28本</td> </tr> </table>			H24	28本	1セット	H27	28本
H24	28本	1セット											
H27	28本												
金物箱	1式		同	同	同								
			梱	 ソフトモーション受座 ※ソフトモーション付の場合のみ									
			品										

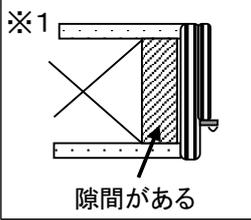
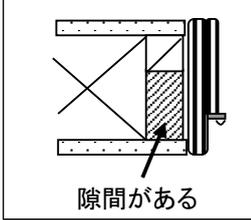
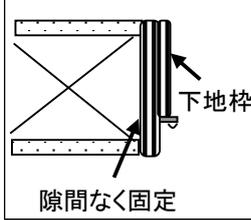
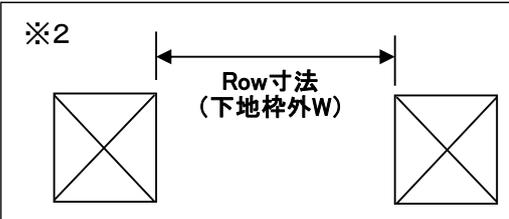
□片開き戸

forステルス枠

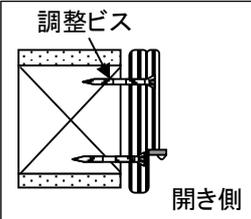
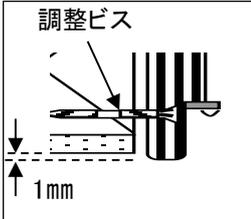
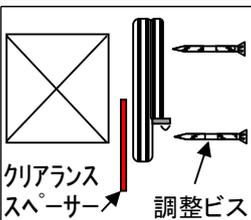
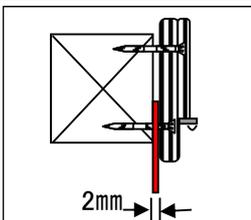
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

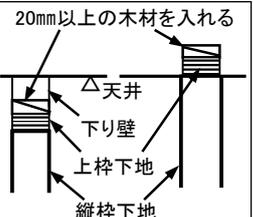
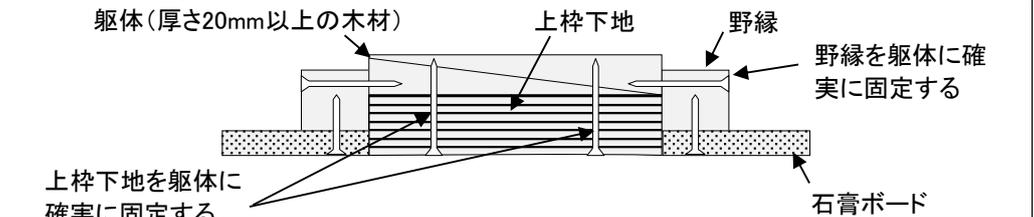
1 施工前の確認事項

<p>① 下地枠を取り付ける前に、開口部の巾（図面：ROW寸法）と高さ（図面：床仕上～開口高さ）の確認をしてください。 （縦枠下地は床仕上げ面からの立ち上がりとなっているので注意してください）</p>	 <p>※1 隙間がある</p>	 <p>隙間がある</p>	 <p>隙間なく固定 下地枠</p>	
	×	×	○	
	 <p>※2 Row寸法 (下地枠外W)</p>			
図面上のRow寸法（下地枠外W）の確認				
<p>注意</p>	<p>※1：下地枠は躯体（構造材）に取り付けますので、下地枠の裏側部分には必ず木材を全面に入れておいてください。</p>			
	<p>※2：施工前のW寸法確認は、図面上のRow寸法（下地枠外W）を確認してください。</p>			
	<p>※開口部（柱・まぐさ等）の水平・垂直・前後の倒れ・ねじれ等がないか、水平器等で十分に確認してください。</p>			

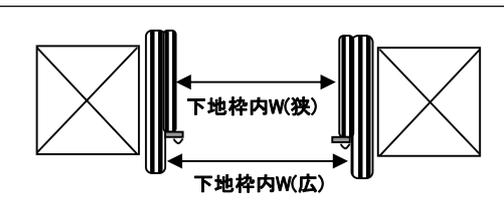
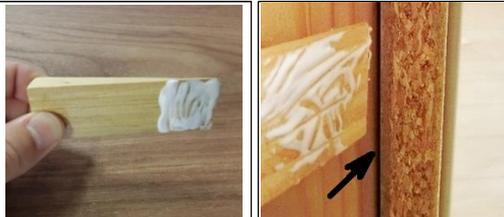
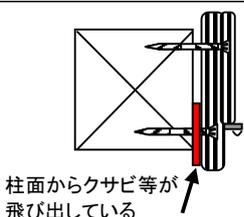
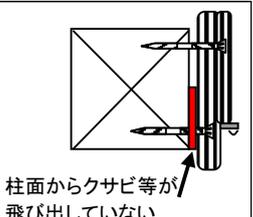
2 縦枠下地の取り付け

<p>① 縦枠下地を柱に固定します。 （下地断面の厚みが薄い方が開き側）枠の位置は壁厚の真ん中に置き、柱にあててレーザー等で立ちを見ながら、同梱されている調整ビスにて枠の固定を行ってください。（縦枠下地は壁厚より1mmずつチリが出ます）</p>	 <p>調整ビス 開き側</p>	 <p>調整ビス 1mm</p>	 <p>ビスの止め方 × 頭が飛出している</p>	 <p>ビスの止め方 ○ 頭が飛出していない</p>
	調整ビスにより枠を固定	壁厚より1mmずつチリが出る	ビスは枠より飛び出さないように固定、及び調整を行ってください。	
<p>② 取り付けの際に、調整ビスの中に同梱されているクリアランススペーサー(2mm)を躯体と枠の間に入れ、クリアランスを保ち、ビス固定を行ってください。（図面寸法：躯体と縦枠下地のクリアランスは2mm） また、縦枠下地の裏側下部にあらかじめ2mmのバック材がついています。</p>	 <p>クリアランススペーサー 調整ビス</p>	 <p>2mm</p>		 <p>バック材</p>
	クリアランススペーサーを挟む	2mmのクリアランスを保ち調整ビスにより枠固定	あらかじめ縦枠下地の裏側下部に2mmのバック材がついている	
<p>注意</p>	<p>※縦枠下地の下部裏側にあらかじめ2mmのバック材が取付けてありますので、枠内寸法が確保できない場合以外は外さないでください。</p>			
	<p>※クリアランススペーサーが抜けない場合は、手動ドライバーにて少しゆるめてから外してください。</p>			
	<p>※躯体がスタッドの場合は石膏ボードに直接、縦枠下地を取り付けると調整ビスが利かないので、必ず間に木材（15mm以上）を入れてください。</p> <p>※調整ビスを何度も出し入れすると、ビス穴が広がり、調整が利かなくなる可能性があるため、その際は別の所で再度、取り付けを行ってください。</p>			

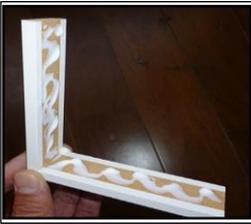
3 上枠下地(下り壁・ソフトモーション付の場合)の取り付け

<p>① 下り壁・ソフトモーションの場合、上枠下地を接着剤・取り付けビス(現場手配品)併用にてまぐさに固定します。(縦勝ちに納まります) その際に、上枠下地の裏側には20mm以上の木材を入れてください。</p>				 <p>20mm以上の木材を入れる</p> <p>△天井</p> <p>下り壁</p> <p>上枠下地</p> <p>縦枠下地</p>
<p>② 上枠下地と石膏ボードを連続して納める場合、野縁を躯体にしっかりと固定します。その際、石膏ボードの厚さ分を確保してください。その後、石膏ボードを上枠下地に合わせて野縁に固定してください。</p>	 <p>躯体(厚さ20mm以上の木材)</p> <p>上枠下地</p> <p>野縁</p> <p>野縁を躯体に確実に固定する</p> <p>石膏ボード</p> <p>上枠下地を躯体に確実に固定する</p> <p>石膏ボードの厚さ分を確保して、野縁を躯体に固定 その後、野縁に石膏ボードを取付ける</p>			
<p>注意</p> <p>※下地枠取り付け後にクロスで仕上げますので、ビスの頭が飛び出さないようにしてください。</p> <p>※上枠下地の裏側には、必ず20mm以上の木材を入れてください。</p> <p>※野縁は躯体にしっかりと固定してください。上枠下地が固定されている躯体に野縁が固定されていないと、クロス割れ、よれ、塗り壁の割れの原因となります。</p>				

4 縦枠下地の調整・クサビ又はパッキン材固定

<p>① 縦枠下地枠の取り付けが終わったら、同梱品の開口定規(2種類)にて下地枠内W寸法の確認をしてください。(狭)・(広)調整が必要な時は、手動ドライバーにて縦枠下地の出し入れを行ってください。</p>	 <p>下地枠内W(狭)</p> <p>下地枠内W(広)</p>		
<p>② ビスでの取り付け・調整が終わったら、縦枠下地と躯体の間にクサビ、またはパッキン(現場手配品)を接着剤併用にて入れて固定してください。</p>		 <p>柱面からクサビ等が飛び出している</p>	 <p>柱面からクサビ等が飛び出していない</p>
<p>注意</p> <p>※ウォールスルーが並列する場合や、その他納まりでビスがはみ出してしまふ恐れがある場合については、別のビス(現場手配品)にて取り付けを行ってください。</p> <p>※クサビ、またはパッキンは、ビスとビスの間にを入れてレーザー等で立ちを見ながら行ってください。</p> <p>※クサビ、またはパッキンが柱面から飛び出していると、石膏ボードの取り付けができないので、柱面からクサビ等が飛び出さないようにしてください。</p> <p>※開口定規は2種類ありますので用途別に使い分けてください。(狭)・(広)</p>	<p>クサビまたはパッキンの表裏に接着剤を塗布し、縦枠下地と躯体の間に差込む</p>	<p>クサビまたはパッキンの入れ方</p> <p>×</p>	<p>クサビまたはパッキンの入れ方</p> <p>○</p>

5 巾木・クロス施工(塗り壁の場合 別紙塗り壁仕様参照)

<p>① 巾木を接着剤にて、縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をお奨めします)</p>				
<p>② パテ等の下地処理をした後で、クロスを貼ってください。 (メッシュ→下塗り→上塗りをお奨めします) その際に金物加工部分もクロスを巻き込んでください。</p>				
<p>注意</p>	<p>※出荷時には、シンプル巾木の欠き込み(7×30)がされています。30mm以上の巾木をご使用の場合は、現場にて高さ方向の切り欠きを行ってください。 (巾木7mm以上の対応は行っていません)</p>			

6 受け金物の取り付け(塗り壁の場合別紙塗り壁仕様参照)

<p>① クロスが乾いてから受け金物部分(ラッチ・ヒンジ等)にカッターで切り込みを入れ、受け金物(ラッチ・ヒンジ等)を加工部に取り付けます。 金物は別途金物箱にあります。</p>				
<p>注意</p>	<p>※金物加工は、クロスの上から取り付けられる寸法になっておりますので、加工形状に切り取らず、切り込みの上から取り付けてください。</p>			

□片開き戸

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

7 建具金物の取り付け

① 建具の吊元の上下にヒンジを取り付けます。(金物は別途金物箱にあります)					
	上部ヒンジの取り付け	上部ヒンジをビス固定	下部ヒンジの取り付け	下部ヒンジをビス固定	
	② 座・錠カバー・レバーハンドルを取り付けます。(金物は別途金物箱にあります)				
		座の取り付け前	座の取り付け 〔レバーハンドルにて〕 穴の位置を確認	カバーの取り付け	レバーハンドルの取り付け
注意 ※ヒンジを取り付ける際、建具に下穴があいていますので、ビスを垂直に上・下を間違わないように取り付けてください。(ストッパーが付いているのが上部) ※ビスを取り付ける際、必ず空回りしないように取り付けてください。(空回りすると脱落する恐れがあります) ※レバーハンドルの座を取り付けた後、レバーハンドルを差し込み、穴の位置を確認してからカバーを取り付けてください。					

8 建具の吊り込み

① 扉を吊り込む前に、上部ヒンジのストッパーを開いておきます。 その後、下部ヒンジ受けの軸に下部ヒンジを差し込みます。				
	上部ストッパーの十字穴にドライバーを差し込み回転させ開く	下部ヒンジ受けの軸に下部ヒンジを差し込む	下部ヒンジの吊り込み	
② 扉側の上部ヒンジを軸の後ろ側から、軸に引っ掛けてください。 最後に、上部ヒンジのストッパーを閉じてください。				
	扉を90度くらい開いた状態で、扉側の上部ヒンジ(溝部)を軸の後ろ側から引っ掛ける	上部ヒンジのストッパーを閉める		
注意 ※下部ヒンジを軸に差し込む際、軸に対して建具を極度に傾けるとヒンジ受けの軸が曲がってしまう恐れがあるので注意して下さい。 ※下部スペーサーは取りはずさないで下さい。 ※扉を吊り込む前に、上部ヒンジのストッパーを必ず開いて下さい。 ※扉を吊り込み後に、扉脱落防止の為必ずストッパーを閉じてください。				

9-1 金物調整 (ヒンジ)

<p>① ヒンジの調整は、建具吊り込み後に扉を閉めたままの状態で行います。 前後及び左右の調整はプラスドライバーを左右に動かして調整を行い、上下は上下調整ねじを回して調整を行ってください。</p> <p>【調整範囲】 前方向+2.5mm 後方向-1.5mm 左右方向±2.0mm 上下方向±2.5mm</p>	<p>前後の調整(上下部のヒンジ)</p> 		<p>左右の調整(上下部のヒンジ)</p> 	
	<p>前後固定ねじを1回転緩め、ドライバーを左右に動かして調整し、固定ねじを締め直す</p>		<p>左右固定ねじを1回転緩め、ドライバーを左右に動かして調整し、固定ねじを締め直す</p>	
				
	<p>上下の調整 (下部ヒンジ) ねじを回して調整</p>	<p>上部ヒンジ : 各ねじの名称</p>	<p>下部ヒンジ : 各ねじの名称</p>	
<p>注意</p> <p>※調整の際は、必ず手回しドライバーを使用してください。 ※前後、左右調整時はまず各固定ねじを1回転緩めてください。固定ねじは2回転以上緩めないでください。 ※調整後は、必ず固定ねじを締め直してください。 ※通常の場合、床と建具下端の隙間は13mmになる設定です。 ※上下方向の調整は、下部ヒンジのみの調整となります。</p>				

9-2 金物調整 (ヒンジ・ラッチ受け)

<p>① ドライバーが吊元側の壁に当たって調整が出来ない場合は、同梱のヒンジ用入隅レンチを使用し調整を行ってください。</p>				
	<p>ドライバー等が壁に当たって調整が出来ない場合は、ヒンジ用入隅レンチを使用して調整</p>			
<p>ラッチ受けの調整は、建具の吊り込み後に手動ドライバーにて前後の調整を行ってください。</p> <p>【調整範囲】 前後方向-0.0mm(手前方向) +8.0mm(後方向)</p>				
	<p>ラッチ受けの調整</p>	<p>ラッチ受けの調整</p>		
<p>注意</p> <p>※ドライバーが吊元側の壁に当たって調整が出来ない場合は、同梱のヒンジ用入隅レンチを使用し調整を行ってください。</p>				

□片開き戸

forステルス枠

施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

10 上部ヒンジストッパーのロック・ヒンジカバーの取り付け

① 最後に同梱品のヒンジカバーを前方からスライドさせて奥まではめ込んでください。				
	上部ヒンジカバー 取り付け	下部ヒンジカバー 取り付け		
注意	※上部ヒンジのストッパーが閉じている事を確認してください。ストッパーが閉じていないとカバーが奥まで入りません。扉脱落防止の為必ずストッパーを閉じてください。			

11 床付けマグネットストッパーの取り付け(オプション)

① オプションのマグネットストッパーを取り付ける場合は扉の中央より吊元側には取り付けないようにしてください。吊元側に取付けると床付けマグネットストッパー、及びヒンジに悪影響を与える恐れがあります。				
	床付けマグネットストッパーの取り付け位置 ○ (扉中央より戸先側)		床付けマグネットストッパーの取り付け位置 × (扉中央より吊元側)	
注意	※オプションの床付けストッパーを取り付ける場合は、扉の中央より内側を避け、戸先側に取付けて下さい。 内側に取り付けると、床付けストッパー及びヒンジに悪影響を与える恐れがございます。 ※オプションの床付けマグネットストッパーを取り付ける場合は、扉を勢いよく開けないように注意してください。 勢いよく開けると、床付けマグネットストッパー及びヒンジ等の破損の原因となります。			

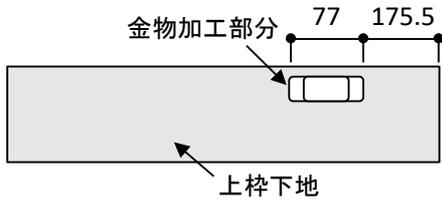
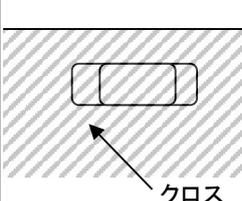
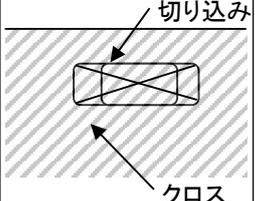
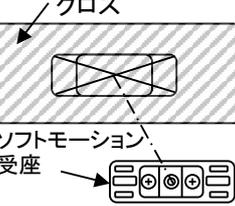
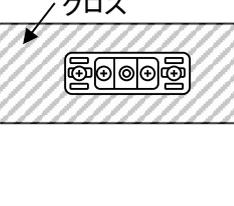
□開き戸用ソフトモーション【オプション】

forステルス枠

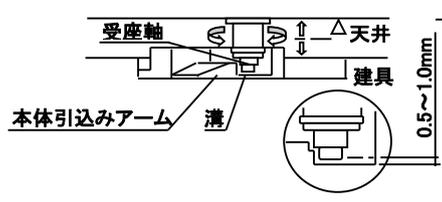
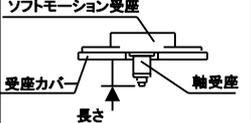
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

1 受け金物の取り付け

<p>① クロス施工後に、上枠下地の金物の加工部分にカッターで切り込みを入れます。</p>			
<p>② ソフトモーション受け座を、加工中央部に取り付けます。</p>	<p>上枠下地の取付向きを確認 ※吊元側に金物加工部分が来ます</p>	<p>金物加工部分まで クロスを貼り伸ばす</p>	<p>金物加工部分にカッターで 切り込みを入れる</p>
			
<p>注意</p>	<p>※クロスは金物加工部分も貼り伸ばしてください。</p>		

2 ソフトモーションの調整

<p>① 建具吊り込み後に建具をゆっくりと閉じ、閉じきった後、建具を開けると、建具上部の本体引き込みアームが飛び出します。</p>										
<p>② 上下調整 受け金物の受座軸が本体引き込みアームの溝から離れすぎているか、もしくは接触している場合は、受け金物の受座固定ナットをゆるめ、受座軸を回しながら上下方向の調整を行い、受座固定ナットで固定してください。</p>		<p>受座固定ナットダンパー調整軸</p> 		<table border="1"> <tr> <td>ソフトモーション受座</td> <td>出荷時長さ</td> </tr> <tr> <td>受座カバー</td> <td>ステンレス枠下り壁 10.0mm</td> </tr> <tr> <td>長さ</td> <td>上記以外 16.5mm</td> </tr> </table>	ソフトモーション受座	出荷時長さ	受座カバー	ステンレス枠下り壁 10.0mm	長さ	上記以外 16.5mm
ソフトモーション受座	出荷時長さ									
受座カバー	ステンレス枠下り壁 10.0mm									
長さ	上記以外 16.5mm									
<p>注意</p>	<p>※調整範囲外で使用すると、ソフトモーション金物が破損する恐れがありますので、注意してください。 (調整範囲は、上下方向+0.5mm/-3.5mm)</p>									

□開き戸用ソフトモーション【オプション】

forステルス枠

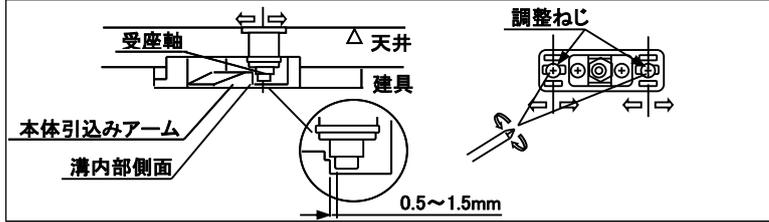
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

2 ソフトモーションの調整

③ 左右調整

受け金物の受座軸が本体引込みアームの溝内部の側面（段差側）から離れすぎているか、もしくはは接触している場合は、受け金物の調整ねじをゆるめて左右方向に調整を行い、調整ねじを固定してください。

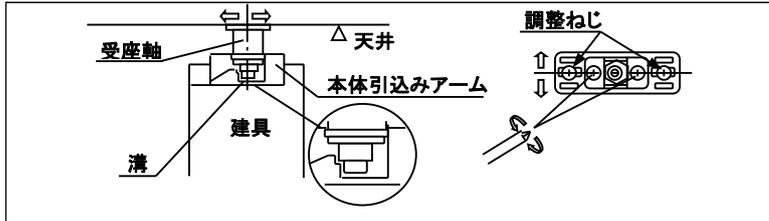


受座軸と引込みアームのすき間を0.5~1.0mmに調整

左右方向の調整

④ 前後調整

受け金物の受座軸が本体引込みアームの溝に入っていない場合は、受け金物の調整ねじをゆるめて受座軸が干渉しない位置まで前後方向の調整を行い、調整ねじを固定してください。



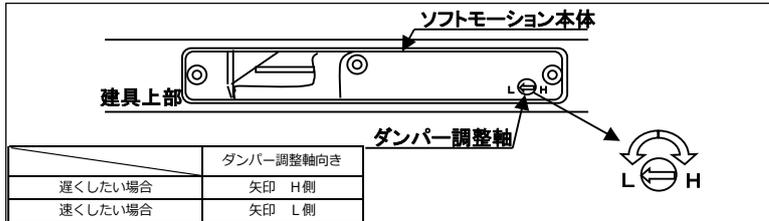
前後方向の調整

注意

※調整範囲外で使用すると、ソフトモーション金物が破損する恐れがありますので、注意してください。
(調整範囲は、左右方向±2.5mm、前後方向±1.5mm)

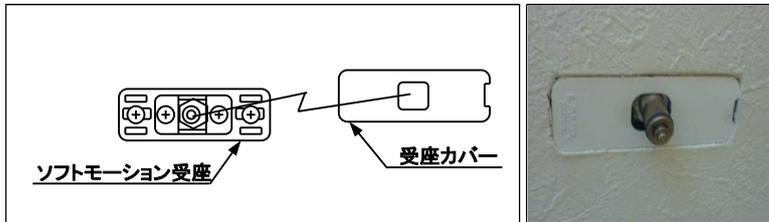
3 ソフトモーションの速度調整・受座カバーの取り付け

① 開閉速度が速い場合は、ソフトモーション本体のダンパー調整軸を180°回して調整してください。



開閉速度の調整

② 調整が終わったら、ソフトモーション受座に受座カバーを取り付けてください。



受座カバーの取り付け

注意

※ソフトモーション本体の出荷時の速度はL側（速い）の設定になっています。

□隠し丁番【オプション】

forステルス枠

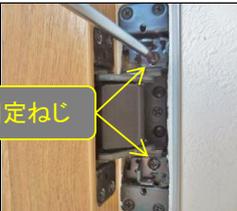
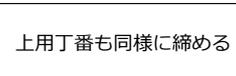
施工手順書2015/12更新

改訂2020/6

1 建具金物の取り付け

<p>① 枠側に枠側取付ベースを取付けます。 その際、枠上側の上段にはねじ付の枠側取付ベースを取付けてください。 枠側への下穴はφ2.5深さ15～20mmであけてください。</p>				
<p>② 扉側に上用丁番と下用丁番を取付けます。 裏面のシール表示通り、上用と下用を間違えないようにしてください。 扉側への下穴はφ2.5～φ3.0深さ約25mmであけてください。</p>			  <p>扉側の丁番取付け部に下穴を開けてから扉上側に上用丁番、扉下側に下用丁番を取付ける（裏面シールで表示しています）</p>	
<p>注意</p>	<p>※上側枠の上段には、吊り込みねじが付いたものを取付けてください。 ※隠し丁番の「枠取付ねじ（4×20）」と「扉取付ねじ（4×40）」の長さが異なりますので、逆に取付けないでください。 ※上用丁番と下用丁番を逆に取付けないでください。扉が垂れて、床などを傷つける恐れがあります。（裏面にシールで表示しています。）</p>			

2 建具の吊り込み

<p>① 建具を吊り込みます。 扉側の上用丁番を90°になるようにセットし、吊り込みねじに引っ掛けてください。 その後、下用丁番の固定ねじを締めてください。</p>				
	<p>上用丁番を吊り込みねじに引っ掛ける</p>		<p>下用丁番を枠側取付ベースに固定ねじ2本で締める</p>	
<p>② 次に、上用丁番の固定ねじを締めてください。</p>				
	<p>上用丁番も同様に締める</p>			
<p>注意</p>				

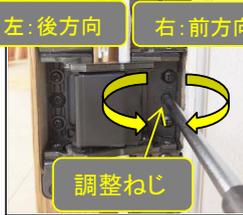
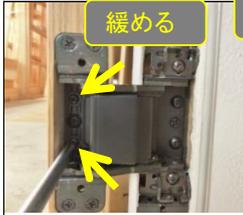
□隠し丁番【オプション】

forステルス枠

施工手順書2015/12更新

改訂2020/6

3 金物調整

<p>① 前後調整方法 <<枠側>> ①前後固定ねじ2本を調整が必要な分、完全に緩めてください。 ②前後調整ねじを右に回すと前に、左に回すと後ろに移動します。 ③調整後に固定ねじを締めます。 【調整範囲】前後方向±2.0mm</p>	 <p>緩める</p>	 <p>左:後方向 右:前方向 調整ねじ</p>		<p>前後固定ねじ2本を緩める</p>	<p>右回しで前方向 左回しで後ろ方向</p>	<p>調整後に前後固定ねじ 2本を締める</p>	
<p>② 左右調整方法 <<扉側>> ①左右固定ねじ2本を緩めます。 ②左右調整ねじを右に回すと吊元側に、左に回すと戸先側に移動します。 ③調整後に固定ねじを2本締めます。 【調整範囲】戸先側+2.5mm 吊元側-1.5mm</p>	 <p>緩める</p>	 <p>左:戸先側 右:吊元側 調整ねじ</p>		<p>左右固定ねじ2本を緩める</p>	<p>右回しで吊元側 左回しで戸先側</p>	<p>調整後に左右固定ねじ 2本を締める</p>	
<p>注意 ※前後固定ねじは、少し緩めただけでは調整代が確保できませんので、完全に緩めてください。 ※必ずハンドドライバーにて調整をお願いします。 ※調整後は、固定ねじを確実に締めてください。</p>							

4 金物調整・カバーの取り付け

<p>① 上下調整方法 <<枠側>> ①上用丁番、下用丁番の上下固定ねじを半回転緩めます。 ②上用丁番の吊り込みねじを右に回すと上方向へ、左に回すと下方向へ移動します。 ③調整後、上用丁番、下用丁番の固定ねじを締めます。 【調整範囲】上下方向±2.0mm</p>	 <p>緩める</p>	 <p>左:下方向 右:上方向 吊込ねじ</p>		<p>上用丁番と下用丁番の上下固定ねじを4箇所半回転緩める</p>	<p>右回しで上方向 左回しで下方向</p>	<p>調整後に上下固定ねじを 締める</p>	
<p>② 枠側カバーと扉側カバーを取り付けてください</p>	 <p>枠側カバー 扉側カバー</p>			<p>枠側カバーと扉側カバー</p>	<p>枠側カバーの取り付け</p>	<p>扉側カバーの取り付け</p>	
<p>注意 ※必ずハンドドライバーにて調整をお願いします。 ※調整後は、固定ねじを確実に締めてください。</p>							

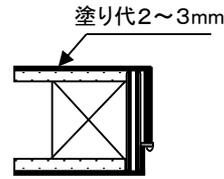
塗り壁仕様施工方法

forステルス枠

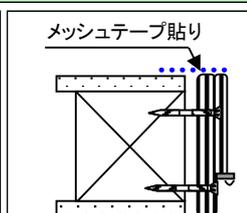
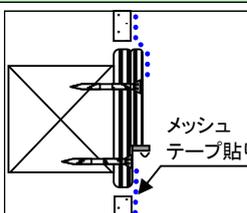
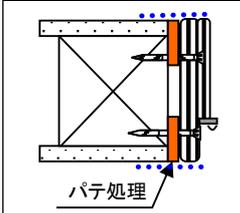
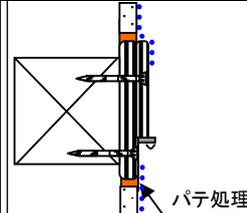
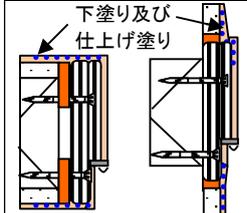
施工手順書2013/6更新

改訂2020/6

1-1 共通事項

<p>① 枠の取付け・調整、クサビまたはパッキンの固定が終わったら、巾木を接着剤にて縦枠下地の欠き込み部分にはめ込むように取り付けてください。(接着剤は酢ビ系をおすすめします)</p>				
<p>② 金物箱と同梱されている受金物（ヒンジ・ラッチ受・鎌錠受・レール・ガイドピース等）を加工部、または下穴があいている所に取り付けてください。</p>				
<p>注意 ※出荷時には、巾木の欠き込みはクロス仕様よりも3mm浅く（4mm）欠き込んであります。（巾木の厚み7mm以上の対応は行っておりません） ※塗りの厚みは2～3mmの設定になっているため、受金物もクロス仕様より2～3mm出っ張るよう加工されています。 ※天井はクロス貼り、下り壁は塗り仕上げの仕様となります。（下り壁仕上げ面の塗りの厚みは1.5mm以内となります）</p>	<p>接着剤全面塗布</p>	<p>下地の巾木欠き込み部分 (4×30)</p>	<p>下地の欠き込み部分にはめ込む様に取り付け</p>	<p>塗り代2～3mm</p>
	<p>ヒンジ取付け (下穴加工部分)</p>	<p>ヒンジ取付け (ビス止め)</p>	<p>ラッチ受取付け</p>	<p>塗り代2～3mm</p>

1-2 共通事項

<p>③ 受金物の取り付けが終わったら、受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切り縁等に隙間がないように養生を確実にし、石膏ボードと枠をまたぐようにメッシュテープを貼ってください。</p>				
<p>④ メッシュテープを貼った後、パテ処理（2度塗りを推奨）をしてください。パテが乾燥後、下塗り材（アク止め入り）をムラなく塗り、1～2日乾燥させてください（漆喰の場合は2度塗り）。その後、仕上げ材をムラなく塗り、3～4日乾燥させてください。この時、ビス部分にもパテ処理を行ってください。</p>				
<p>注意 ※ウォールスルーはガラスの押え縁を見切り塗ってください。 ※受金物・樹脂見切り・金物台座・巾木・見切り縁等は出の寸法が異なりますので、はみ出さないよう注意して塗ってください。 ※片開き戸、親子戸はヒンジ側の納まりが平部の場合、巾木は縦枠下地の面を止める仕様になります。（ヒンジから巾木までの欠き込みは、塗りにて処理してください） ※漆喰の場合、アク止めは1回塗った後に十分乾燥させ、さらにもう1回塗って、1～2日乾燥させた後に上塗りを行ってください。</p>	<p>受金物等に養生</p>	<p>メッシュテープ貼り (石膏ボードと枠をまたぐように貼る)</p>	<p>パテ処理 (下地処理) (2度塗りを推奨)</p>	<p>下塗り及び 仕上げ塗り</p>